

2023 年度報告 横浜市青少年育成センター

1 施設の管理運営

2023 年度は、5 月に新型コロナが第 5 類感染症へ移行したことで、市民の生活・行動も本格的に回復を始める大きな転換期を迎えての運営となりました。結果的には、全体として昨年度を上回る実績となったものの、回復度合いは力強さを欠く結果となりました。

コロナ禍から整備を進めてきたオンライン機材の貸出とサポート対応、キャッシュレス決済システムも軌道に乗りつつあり、年度末には LINE 公式アカウントを利用した情報発信と予約手続きの準備を進め、団体活動の支援、そして利用者の利便性向上に努めてきました。

利用者対応では、利用者アンケートと共に、今年度も青少年育成者・指導者団体へのヒアリングを実施し、施設運営や事業の改善につながる貴重な意見をいただきました。

【開館日数・利用状況】

年度	開館日数	利用団体	利用人数	印刷室利用	相談件数	稼働率
2019	311 日	4,105 件	50,857 人	548 件	93 件	66.1%
2020	281 日	2,010 件	19,625 人	292 件	71 件	39.8%
2021	339 日	3,072 件	30,561 人	472 件	75 件	45.9%
2022	340 日	3,850 件	42,871 人	618 件	108 件	56.5%
2023	341 日	3,952 件	45,053 人	732 件	130 件	57.8%

※2020 年 3 月～5 月は新型コロナウイルスの影響で臨時休館。

2 施設の主な事業

(1) 青少年を支える人材の育成（講座・研修、ネットワーク形成の充実）

青少年への関心や育成者関係の学ぶ機会の確保に努めるため、今年度の研修は、新型コロナ 5 類移行を勘案して、オンラインやハイブリット形式に加え、対面形式も本格的に加えて取り組みました。

青少年理解の基礎講座では、「発達障がい」「ヤングケアラー」「性の多様性」「オーバードーズ」「虐待」など、社会的関心の高いテーマで実施したほか、青少年活動の実践者向けの専門研修では、昨年度に注目された「性教育」に加えて、青少年と関わる人が直面するストレスとの向き合い方やセルフケアを含めた「ストレスマネジメント」研修を実施し、高い評価を得ました。

青少年活動の関係者のネットワーク形成では「子ども・若者に関わる関係者の大交流会」「交流勉強会わかつてのば」の実施により、活動する個人や団体、業種や年代を超えた学び合いと関係づくりの場や地域や青少年現場で活動する 20 代若手に自己キャリア形成、そして横のつながりの場を提供しました。

また、大学生による地域活動の取材・発信による次世代人材育成では、これまでのオンライン中心から現場への直接取材、活動参加へと移行しており、事業として順調に推移しています。

(2) 青少年育成活動等に関する情報の収集・提供（相談・情報提供など）

相談・コーディネートでは、第 5 類移行を機に活動再開に取り組む団体・関係機関から、企画の助言、会場や講師の紹介など事業関連の相談が多数寄せられました。SNS を活用した情報発信・提供では、施設事業や活動だけでなく、他団体の取り組みも関連情報として発信するなど幅広い情報提供を心がけました。その他、施設の空きスペースを活用した青少年育成団体の紹介パネル展など、様々な形で情報発信を行ないました。また、関内周辺の地域特性に応じた青少年育成・相談の場づくりモデル事業では、試行として誰もが気軽に立ち寄れるカフェ形式の場を設け、今後の事業展開につながる情報収集に努めました。

会議室・スタジオ利用状況

Table with columns: 月, 開館日数, 減免件数, コマ数(a), 利用団体数(b) [計, 青少年, 指導者, 一般, ユース], 稼働率(b/a) [全体, 青少年, 指導者, 一般, ユース], 利用人数 [計, 青少年, 指導者, 一般]. Rows include monthly data and a total row.

内訳

Detailed breakdown table with columns: 月, コマ数(a), 利用団体数(b) [計, 青少年, 指導者, 一般, ユース], 稼働率(b/a) [全体, 青少年, 指導者, 一般, ユース], 利用人数 [計, 青少年, 指導者, 一般]. Rows are categorized by room type: 研修室1, 研修室2, ミーティングルーム, 和室, and スタジオ.

《目標設定時公表項目》 2023 年度 横浜市青少年育成センター

目標設定の視点	運営目標	管理指標・数値
利用者サービス	地域の青少年活動を支援するため、施設の貸出や青少年育成に関する相談や情報提供などに対応します。	①施設稼働率 72%（前年度年間目標：70%） ②相談・情報提供業務 年間 100 件 （前年度年間目標：100 件）
業務運営	①青少年に向き合う地域人材を育成します。 ②青少年育成者・団体ネットワークの推進を強化します。	①青少年育成に関する講座・研修等への参加者数 延べ 780 人以上。（前年度年間目標：700 人以上） ②青少年育成に取り組む他団体と連携して、青少年育成者や、団体のネットワークを推進します。 連携事業：年 4 事業以上
職員育成	①青少年活動を多角的に支援できる職員の養成 ②安心して活動できる施設運営	①職員の外部研修への参加 年 6 回以上。 育成センタースタッフの内部研修の実施 年 1 回以上 ②避難誘導訓練 年 2 回、AED 講習会 年 1 回
財務	利用料収入および事業収入の増収を図り、自主財源を高めます。	①利用料収入 195 万円（前年度年間目標：190 万円） ②事業収入 85 万円（前年度年間目標：75 万円）

《実績評価時公表項目》

目標設定の視点	運営目標	管理指標・数値	実績値	目標との差異	今後の取組（改善計画）
利用者サービス	利用手続きの簡便化やオンライン活動の支援など利便性の向上を図り、利用促進に取り組めます。	①施設稼働率：72% ②相談・情報提供業務年間：100 件	①57.8% ②130 件	①14.2% ②+30 件	①空き室情報の更新頻度を高める他、Line 公式の運用による手続き簡便化など利便性向上に努めます。 ②多岐にわたる相談に対応できる施設として、引き続き、情報収集と職員育成に努めます。
業務運営	①広報の工夫やオンラインの活用によって参加者増加を図ります。 ②青少年育成者・団体ネットワークの推進を強化します。	①講座・研修等の参加者数延べ 780 人以上。 ②他団体との連携事業：4 事業以上	①460 人 ②9 件	①320 ②+5 件	①次世代人材の参加率向上のため、参加しやすい価格設定など工夫に取り組みます。 ②連携事業は、継続団体の他、新たな団体も意識して取組みます。
職員育成	①青少年活動を多角的に支援できる職員の養成 ②安心して活動できる施設運営	①外部研修への参加 年 6 回以上 ②避難誘導訓練年 2 回 AED 講習会年 1 回	①43 回 ②避難 2 回 AED 1 回	①+37 ②なし	①積極的に研修参加を促すことで、青少年課題の理解を深め、活動相談・コーディネートに力を発揮できる職員の養成に努めます。②利用者の安全に関する研修を定期的実施します。
財務	ニーズへの柔軟な対応、事業参加率向上により利用料収入および事業収入の増収を図ります。	①利用料収入 195 万円 ②事業収入 85 万円	①155 ②110	①40 ②+25	①SNS による情報発信や優先利用の周知等により、利用頻度、利用層拡大等に努めます。 ②事業の参加率向上、貸出物品・サービスの充実、利便性向上に努めます。

A 青少年活動を支援する事業 あ 施設貸与

事業名	実施日	件数	利用人数	備考
1 利用者案内、利用相談、受付 ●会議室、スタジオ等の貸出 ・貸し出し、利用相談 ・育成団体登録時の相談実施	4～3月	3,952件	45,053人	・件数内訳) 青少年 408件 育成団体 1,625件 一般 1,763件 法人利用 156件 ・登録件数内訳) 289件 青少年 38件 育成団体 86件 一般 165件
●HPによる情報提供	随時	・抽選予約状況(3か月前、毎月) ・スタジオ空室状況(2か月分・週1回更新および随時)		
2 施設での活動支援、安全・衛生環境管理 ●非常用物品の確認・点検 ・各室非常灯の点検、救急箱の点検 ・部屋貸し出し時の避難経路案内	毎月 随時	—	—	・地震および火災時の対応 非常灯表示 ・HPによる案内(帰宅困難者一時 滞在施設) ・備蓄品の購入と保管(水、軽食)
●避難訓練の実施	①7/24 ②3/11	年2回	—	・避難誘導訓練の実施
●スタッフ救急研修	3/11	年1回	—	・AED等応急手当講習
3 利用者サービス向上のための取り組み ●活動支援室(プリントルーム)事業	4～3月	732件	—	印刷機/コピー/ラミネート 製本作業等の活動支援事業
●館外貸出物品事業(着ぐるみ)	5～3月	9件	—	新型コロナ5類移行以降、貸出再開
●利用サービスの向上 交流スペース、ワークルームの運営 利用者用ロッカーの貸出	通年	—	—	・個別学習コーナー ・子ども食堂寄付物品の中継支援 (菓子、消毒薬 他) など
●利用者アンケートの実施	1～3月	106件	—	・利用状況や利用者サービス、 職員対応などを調査
4 その他 Line 公式アカウントを活用した利便性 向上の取組み	2月	—	—	Line 公式アカウントによる利用予 約や問合せ受付、利用手続き等の運 用に向けた準備(4月運用開始予定)

A 青少年活動を支援する事業 え 相談・助言

事業名	実施日	件数	備考
青少年育成に関する相談・情報の収集と提供 ●相談・コーディネート	4～3月	130件	・窓口、電話、Eメールでの相談対応 ・青少年及び地域活動の企画・実施への助言 ・学習、進路、家庭問題など

<p>●情報の提供 ユースライブラリーの運営 HPやSNS等による情報提供 館内空きスペースを活用したパネル展</p>	随時	—	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年に関する書籍の収集・配架・貸出 ・青少年指導者向けの研修・講座情報の提供 ・青少年統計データ、ボランティア情報提供 ・青少年に関する書籍の貸出とデータベース化 ・青少年通信の発行 2,000 部配布 ・Facebook, twitter, note 等の SNS での情報発信 ・パネル展の実施：「育成センター利用団体の活動紹介」4 団体
<p>●相談・助言の対応の向上 (スタッフスキルアップ研修等)</p>	①毎月 ②随時	—	<p>①月例会議でのケースカンファレンス (毎月)</p> <p>②外部研修への職員の参加 (43 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年課題に関する研修会 ・子どものセーフガーディングに関する研修 ・ユースワークに関する研修 ほか

A 青少年活動を支援する事業 お 調査、資料収集

<p>●調査・資料収集 ①地域の青少年活動のサーチ ③外部人材との意見交換会</p>	①通年 ②11月 ～3月	①9 件 ②6 回	<p>①青少年に関する新しい取り組みの取材・発信</p> <p>②施設の活用方法や PR、運営課題についての意見交換会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業協力関係にある青少年育成者・指導者 (6 団体)
--	--------------------	--------------	--

B 青少年を支える人材を育成する事業 い 講座・セミナー・育成

日常の関わりの中で包括的に青少年を支え、青少年や地域が抱える課題に対して、青少年自身または地域の活動者・実践者に寄り添い、共に考え伴走していけるような人材の広がりを目指し、事業を企画・実施しています。

講座・研修は、青少年理解の基礎的な内容から、活動者・実践者が学びを積み上げていく連続講座、活動現場の実践で活かせるスキルアップ講座、青少年に関わる方々が出会い学び合う交流会やフォーラムなど、参加者それぞれの立場やレベルに合わせた研修体系となっています。

事業名	実施日	参加人数	備考
<p><青少年理解の基礎講座> 全 10 回</p> <p>① 「デートDV 理解と対応」 講師：エンパワメントかながわ 浜谷 典子 氏</p>	①6/13	①14 人	
<p>② 「発達障がい理解」 講師：臨床心理学博士 中本 テリー 氏</p>	②6/21	②21 人	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年を取り巻く現状や課題について学び、青少年に寄り添う人材を増やすことを目的に青少年理解の基礎講座 (全 10 回) を 6 月～10 月にかけて実施した。
<p>③ 「ヤングケアラーの SOS に気づいたら」 講師：一般社団法人 Omoshiro 勝呂 ちひろ 氏</p>	③6/28	③21 人	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、ハイブリッド形式による開催を継続。
<p>④ 「ユースワークの基礎」 講師：ユースワーカー協議会 水野 篤夫 氏</p>	④10/31 ※7/4 予定。講師 怪我で延期	④8 人	<ul style="list-style-type: none"> ・定員 50 人 (対面 30 人、オンライン 20 人)、参加費：各回 600 円

事業名	実施日	参加人数	備考
<p><青少年理解の基礎講座></p> <p>⑤ 「子どもの虐待被害と回復 前編」 講師：NPO 法人子ども支援センターつなぐ 飛田 桂 氏</p> <p>⑥ 「オーバードーズと身近な依存症」 講師：神奈川県立精神医療センター 西村 康平 氏</p> <p>⑦ 「子どもの生きづらさに寄り添うこと」 講師：一般社団法人かけはし 廣瀬 貴樹 氏</p> <p>⑧ 「ひとりひとりの「性」を大切にする」 講師：一般社団法人にじーず 遠藤 まめた 氏</p> <p>⑨ 「ひとり親家庭の支援」 講師：NPO 法人DV対策センター 穂志乃 愛莉 氏</p> <p>⑩ 「子どもの虐待被害と回復 後編」 講師：NPO 法人子ども支援センターつなぐ 飛田 桂 氏</p>	<p>⑤7/12</p> <p>⑥9/14</p> <p>⑦9/21</p> <p>⑧9/28</p> <p>⑨10/4</p> <p>⑩10/11</p>	<p>⑤24 人</p> <p>⑥19 人</p> <p>⑦21 人</p> <p>⑧25 人</p> <p>⑨8 人</p> <p>⑩12 人</p> <p>計173人</p>	<p>・青少年を取り巻く現状や課題について学び、青少年に寄り添う人材を増やすことを目的に青少年理解の基礎講座（全10回）を6月～10月にかけて実施した。</p> <p>・昨年度同様、ハイブリッド形式による開催を継続。</p> <p>・定員50人（対面30人、オンライン20人）、参加費：各回600円</p>
<p><専門研修（連続講座）></p> <p>①「性教育を学ぶ」（全2回）</p> <p>・第1回 講師：助産師・思春期保健相談士 千田 陽子 氏</p> <p>・第2回 講師：（一社）“人間と性”教育研究協議会 中野 久恵 氏</p> <p>②「子どもに関わる人のためのストレスマネジメント講座」（全3回） 講師：ノンフィクション作家・自己尊重 ラボ Love Myself 代表 北村 年子 氏</p>	<p>①</p> <p>・1/18 ・1/22</p> <p>②</p> <p>・10/23 ・11/1 ・11/15</p>	<p>①</p> <p>・11 人 ・14 人</p> <p>②</p> <p>・8 人 ・8 人 ・9 人</p> <p>計50人</p>	<p>・青少年に関わる活動や業務に関わる実務経験者のレベルアップを目的に、青少年に関わるための専門研修を2講座で実施した。</p> <p>・「性教育を学ぶ」は青少年に関わる大人が青少年と性について話ができることを目標に実施。</p> <p>・「ストレスマネジメント」は青少年に関わるなかで抱える様々なストレスや感情の対処とセルフケアを学ぶ講座として実施。</p> <p>・①定員各20人 参加費：1,500円（1回） ・②定員各20人 参加費：4,500円（3回） ※全回対面開催</p>

<p><次世代人材の育成研修></p> <p>①次世代人材育成ボランティア ・定員 30 人</p> <p><内容> ・取材 2 回（若者の居場所他） ・地域イベント（朝市）での活動 2 回 ・市社協事業の取材 2 回 ・その他、オンライン面談、MTG・交流会を実施</p> <p>②「あそび」のボランティア入門講座 ・定員 30 人</p> <p><内容> ・オリエンテーション ・プレイパークでの活動 ・ふりかえり</p> <p>③社会教育実習生の受入れ ・立教大学 社会教育主事課程実習生</p>	<p>①通年</p> <p>②7-9 月</p> <p>③7-8 月</p>	<p>①26 人</p> <p>②26 人</p> <p>③1 人</p>	<p>・青少年に関わる次世代人材の育成を目的に、主に大学生世代の青少年が、地域活動の取材や情報発信を通して、社会に関わる活動に参加する機会を提供した。また、取材をきっかけに大学生ボランティアが地域の活動団体とつながり、活動に参加するきっかけが生まれるなど、人材のすそ野を広げる取組となった。</p> <p>・高校生・大学生世代を対象に、プレイヤーパークでの活動を通して、地域で子どもの遊びや活動を支援する若者ボランティアを養成しました。</p> <p>・実習生の受入れは、今年度は立教大学から 1 名を受け入れ、施設管理や事業のほか、居場所施設の見学なども行ない、青少年施設業務を学ぶ機会を提供した。</p>
<p style="text-align: center;">事業名</p>	<p style="text-align: center;">実施日</p>	<p style="text-align: center;">参加人数</p>	<p style="text-align: center;">備考</p>
<p><青少年活動を支援するためのスキルアップ講座> 「子ども・青少年との関わり方のコツ講座」 （全 3 回）</p> <p>①講師：一般社団法人からこそ BOX 代表 瀧脇 信 氏 内容：移動式屋台カフェによる対話の場づくり活動について</p> <p>②講師：任意団体 あすのち 代表 乾 氏 内容：子どもの学習サポートとコミュニティスペースを開く活動について</p> <p>③講師：ひきこもり当事者グループ ひき桜 代表 割田 大悟 氏 内容：ひきこもり経験者団体によるピアサポート学習会などの実践について</p> <p><団体運営の支援や課題解決のための講座></p> <p>①「子どもたちの心を掴む VOICE トレーニング」 （全 2 回） 講師：株式会社 Voice Crew 毛利 大介 氏 ・定員 20 人 ・参加費：1,500 円（1 回） ・内容：通る声、安心する声の実践ほか</p> <p>②「イベントが盛り上がる♪バルーンアート」 講師：ジュニアリーダーズクラブ 野田 融 氏 ・定員 20 人 ・参加費：500 円 ・内容：初級及び中級バルーンアート</p>	<p>①7/23</p> <p>②9/3</p> <p>③9/24</p> <p>① ・11/20 ・12/4</p> <p>②2/28</p>	<p>①4 人</p> <p>②5 人</p> <p>③13 人</p> <p>計 22 人</p> <p>① ・12 人 ・10 人</p> <p>②19 人</p> <p>計 41 人</p>	<p>・青少年育成に関わる人や団体の活動の充実を図ることを目的に、青少年活動や青少年育成団体の運営に役立つ知識・スキルを学ぶ講座を実施した。</p> <p>・子ども・青少年との関わり方のコツ講座では、若者が運営する団体から講師を招き、団体を立ち上げた経緯や子どもと向き合う中で感じている思いなどを語ってもらい、若者の声を聞き、日ごろの活動のヒントとする講座として実施。</p> <p>・VOICE トレーニング、バルーンアート講は、育成センターを利用する活動団体やこれまでの研修参加者の声を拾い上げて実施。特にバルーンアートではジュニアリーダーとして日頃から地域で活動する若者を講師に迎え、次世代人材養成、異世代交流も期待して企画した。</p>

<p>行政機関や青少年支援団体等と連携した 人材育成</p>	<p>通年</p>	<p>9 団体</p>	<p>・ 青少年育成団体等との協働し、幅広いテーマの人材育成に関する事業を共催等で実施した。 ①NPO法人よこはまチャイルドライン 「子ども支援者養成講座」 ②横浜市母子寡婦福祉会 「養育費セミナー」 ③日本作法会 横浜関内教室 「心を育てる講座 こども作法」 ④NPO法人子ども支援センターつなぐ 「子ども話を聞く教職員向け研修」他 ⑤おもしろ科学たんけん工房 「理科推進スタッフ体験講座」 ⑥横浜市教育委員会 人権教育・児童生徒課 「横浜プログラム指導者養成研修」他 ⑦横浜にプレイパークを創ろうネットワーク 「プレイリーダー研修」他 ⑧プログラミングで海のSDGs！実行委員会 「プログラミングで海のSDGs！」 ⑨一般社団法人ラシク045 「地元版子ども子育て会議」</p>
<p>事業名</p>	<p>実施日</p>	<p>参加人数</p>	<p>備考</p>
<p>＜青少年育成関係者の交流勉強会＞ 「わかてのば」</p> <p>話題提供者： ・ほどがや市民活動センターアワーズ 北川 有紀 氏 ・あおばコミュニティテラス 大久保 智弘 氏 ・横浜市野島青少年研修センター 五十嵐頭二 氏</p> <p>①自己紹介とコミュニケーションワーク ②つながりたいむで話す ③「問い」を問う ④フォトコラージュで自分をふりかえる ⑤プロフィールを作ってみる ⑥今年度を物語ってみる</p>	<p>①10/31 ②11/21 ③12/19 ④1/19 ⑤2/20 ⑥3/12</p>	<p>①8人 ②4人 ③9人 ④6人 ⑤11人 ⑥7人 計45人</p>	<p>・ 昨年度までの「青少年に関わる」に加え、「地域」で仕事をしている 20 代の若手人材の育成とネットワーク形成を目的に、少し上の世代の実践者との交流、同世代とのつながり、自身のキャリアについて振り返る機会を提供した。</p> <p>・ 今年度は、昨年度の参加者に話題提供者を担ってもらい工夫なども取り入れながら、横のつながりや場づくりの経験の場として開催したことで、高い満足度を得られる勉強会となった。</p> <p>・ 定員 15 人、参加費各回 500 円（全 6 回申込みの場合は 2,500 円）</p>
<p>＜青少年団体等のネットワーク形成事業＞ 「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」</p> <p>※「横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の大交流会」を開く会との共催 ※今年度はハイブリッド形式から対面形式に戻して実施。</p>	<p>7/2</p>	<p>41 団体 76 人</p>	<p>・ 青少年に関わる活動団体や関心のある人が集まり、活動発表と交流することを目的に共催事業として実施した。育成センターは事務局として世話人会開催サポート、広報、当日運営サポートを行った。</p> <p>・ 今年度は新型コロナも 5 類に移行したこともあり、昨年度に要望の多かった対面形式に戻しての開催となった。</p> <p>・ 今年度も新たに参加した団体・個人の参加があり、定員を上回る参加者を得ることができた。交流会では、今後の活動のヒントにつながるような交流により、子ども・青少年に関わる人たちの貴重なネットワークの場を提供することができた。</p>

2023年度 横浜市青少年育成センター施設管理業務報告【4月～3月】

○建築物の保守管理

項目	機器及び設備名称	実施内容	回数	実績	分担
内部仕上げ	壁面・天井・床・等	目視点検	1日1回以上		育成C

○空調・電気・消防設備等保守点検

項目	機器及び設備名称	実施内容	回数	実績	分担
空調設備	外観の状態	目視点検	1日1回以上		関内H
	自動運転盤の異常の有無	目視点検	1日1回以上		関内H
	電流値の適正	目視点検	1日1回以上		関内H
	モーターの異常の有無	目視点検	1日1回以上		関内H
	回転音異常の有無	目視点検	1日1回以上		関内H
	ファンベルトの異常の有無	目視点検	1日1回以上		関内H
	ドレンパンの異常の有無	目視点検	月1回	4/10,5/8,6/12,7/10,8/15,9/12,10/10,11/6,12/11,1/9,2/14,3/11,	関内H
フィルターの汚れ	点検・清掃	月1回	4/10,5/8,6/12,7/10,8/15,9/12,10/10,11/6,12/11,1/9,2/14,3/11,	関内H	
電気設備	受電設備	年次点検	年1回(9月)	9/11,	関内H
	配電設備	年次点検	年1回(9月)	9/11,	関内H
	蓄電池設備	機器・総合点検	年1回(10月、3月)	10/10,3/11,	関内H
消防設備		機器・総合点検	年2回(9月、3月)	9/25,3/11,	関内H
中央監視装置		本体・制御点検	年2回(8月、2月)	8/28,1/29,30,	関内H
エレベーター設備		月例点検	月1回	4/10,5/8,6/12,7/10,8/15,11/6,12/11,1/9,3/11,3/25,	関内H
防火シャッター設備	防火シャッター設備	定期点検	年1回	2/14,	関内H
自動ドア設備		定期点検	年4回(6,9,12,3月)	6/12,9/12,12/11,3/11,	関内H

○環境衛生業務

項目	機器及び設備名称	実施内容	回数	実績	分担
環境衛生管理	空気環境測定		年6回(奇数月)	5/24,7/20,9/5,11/16,1/23,3/25,	関内H
	水質検査		年2回(7月、2月)	7/19,2/7,	関内H
	害虫駆除	薬剤散布等	年2回(8月、2月)	8/14,2/13,	関内H
	受水槽清掃	物理的清掃	年1回(6月)	6/12,	関内H
	残留塩素測定	試薬による点検	1日1回		関内H
	高置水槽清掃	物理的清掃	年1回(6月)	6/12,	関内H
	雑排水槽清掃	物理的清掃	年2回(8月、2月)	8/15,3/11,	関内H
	排水管清掃			特になし	関内H

○備品等の保守管理

項目	協定の内容	実績	分担
事務備品の管理	施設の運用に支障をきたさないよう適正に管理する	日常点検とともに実施	育成C
消耗品の管理	施設の運用に支障をきたさないよう適正に管理する	日常点検とともに実施	育成C

○清掃業務

項目	機器及び設備名称	実施内容	回数	実績	分担
日常清掃		日常清掃	1日1回以上		関内H
定期清掃	床清掃(洗浄・ワックス塗布)	ワックス塗布	年5回	4/10,5/22,6/12,7/24,8/28,9/11,10/10,11/6,12/11,1/9,3/11	関内H
	照明器具清掃	照明器具、排気口清掃	年1回	2/14,	関内H
	ガラス清掃	ガラス清掃	年6回(奇数月)	5/8,7/10,9/12,11/6,1/9,3/11,	関内H

○保守管理業務

項目	機器及び設備名称	実施内容	回数	実績	分担
常駐警備		巡回警備	1日4回以上		関内H
機械警備		セコム	毎日(夜間)	警戒警備	関内H

横浜市青少年育成センター 2023年度施設利用者アンケート 集計結果

アンケート期間:2024年1月18日～3月16日

2024年1月18日～3月16日
(回答数件 106件)

調査方法:議室等を利用の際にアンケート用紙を配布し、記入後回収

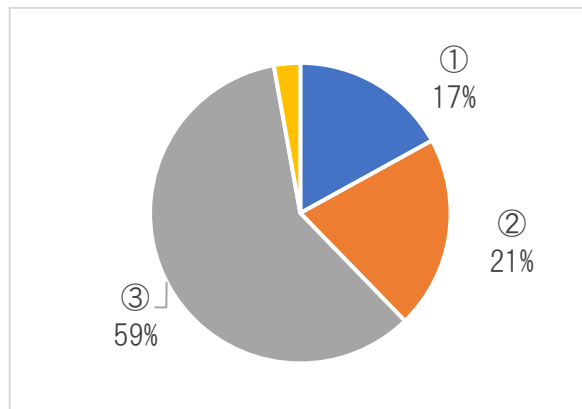
横浜市青少年育成センター

横浜市青少年育成センター 2023年度施設利用者アンケート集計結果

1. 利用状況について

(1) 利用区分を教えてください。

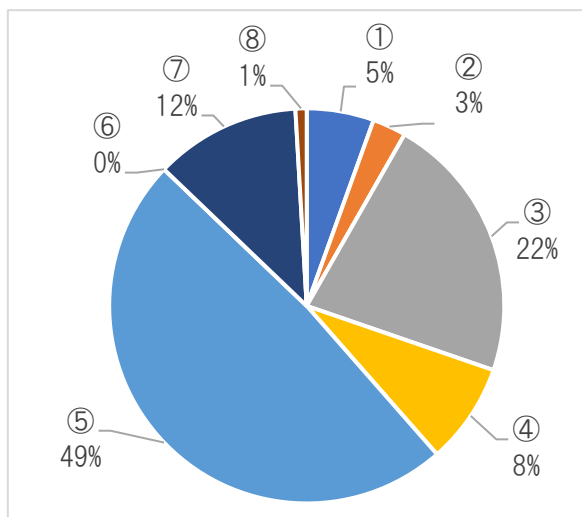
① 青少年団体	18	17%
② 育成者・指導者団体	22	21%
③ 一般団体	63	59%
④ 未記入	3	3%
総数	106	



(2) どのような団体ですか？(複数回答可)

① 非営利法人(NPO法人等)	6	6%
② 公共的団体(自治会・町内会等)	3	3%
③ 任意団体(青少年育成)	24	22%
④ 任意団体(市民活動)	9	8%
⑤ サークル・同好会・個人	53	49%
⑥ 一般企業	0	0%
⑦ その他	13	12%
⑧ 未記入	1	1%
総数	109	

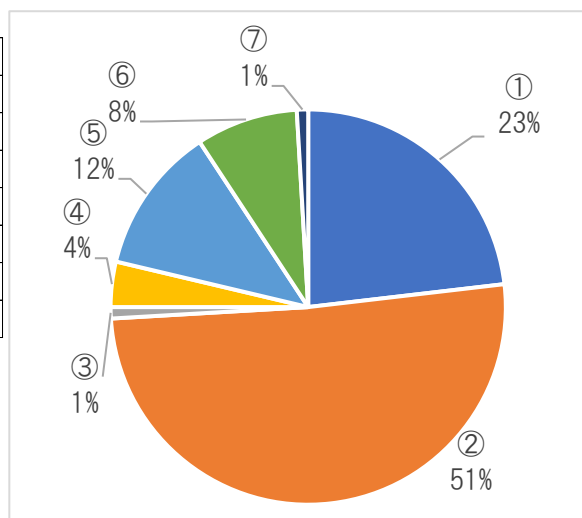
青年会議所/学童野球/教職員/工業会/バンド/校友会/日本作法会
/教育委員会/横浜市教育委員会



(3) どのような規模で活動していますか？

① 神奈川県域	25	23%
② 横浜市域	55	51%
③ 区域	1	1%
④ 限定した地域	4	4%
⑤ 知り合い・友人のみ	13	12%
⑥ その他	9	8%
⑦ 未記入	1	1%
総数	108	

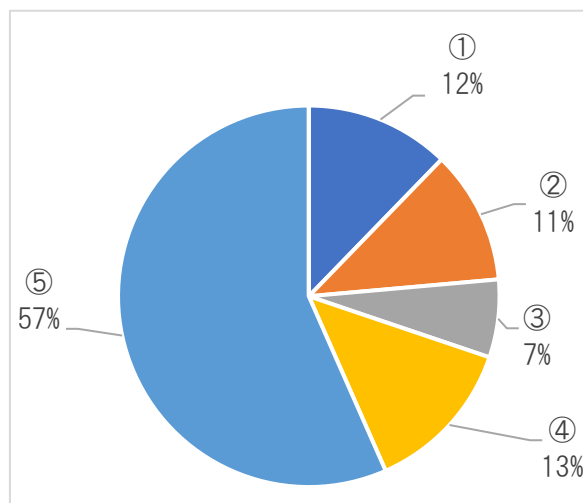
個人/山梨県に施設あり/東京都/マンション組合員/国内外/施設訪問、同期会、主に都内大田区/関東を中心に全国/卒業生/職域



横浜市青少年育成センター
2023年度施設利用者アンケート集計結果

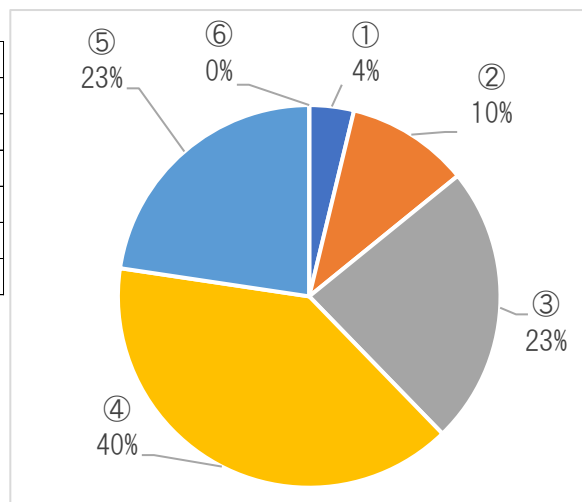
(4) 当施設をどのぐらいの期間、利用していますか？

① 1年未満	13	12%
② 1年以上2年未満	12	11%
③ 2年以上3年未満	7	7%
④ 3年以上5年未満	14	13%
⑤ 5年以上	60	57%
⑥ 未記入	0	0%
総数	106	



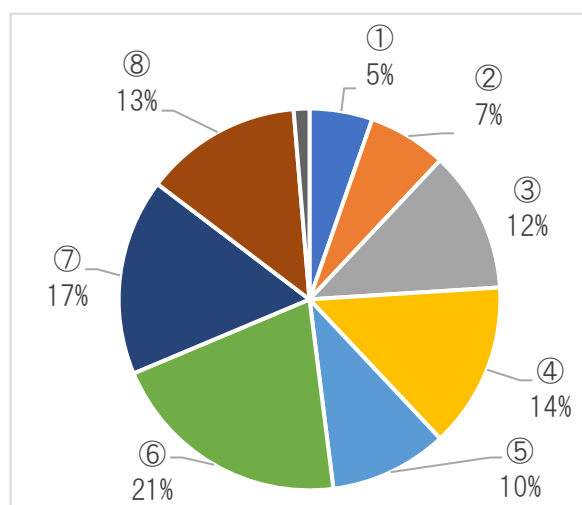
(5) 当施設をどのぐらいの頻度で利用していますか？

① 2回以上/週	4	4%
② 1回/週	11	10%
③ 2~3回/月	25	24%
④ 1回/月	42	40%
⑤ 数回/年	24	23%
⑥ 未記入	0	0%
総数	106	



(6) 主に利用される曜日はいつですか？(複数回答可)

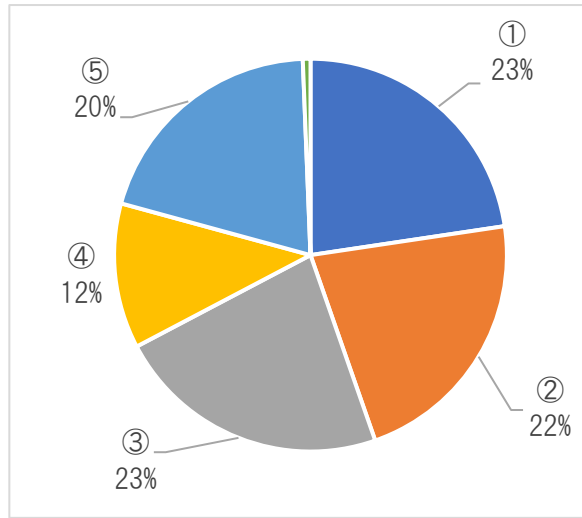
① 月曜日	8	5%
② 火曜日	10	7%
③ 水曜日	18	12%
④ 木曜日	21	14%
⑤ 金曜日	15	10%
⑥ 土曜日	31	21%
⑦ 日曜日	25	17%
⑧ 不定期	20	13%
⑨ 未記入	2	1%
総数	150	



横浜市青少年育成センター
2023年度施設利用者アンケート集計結果

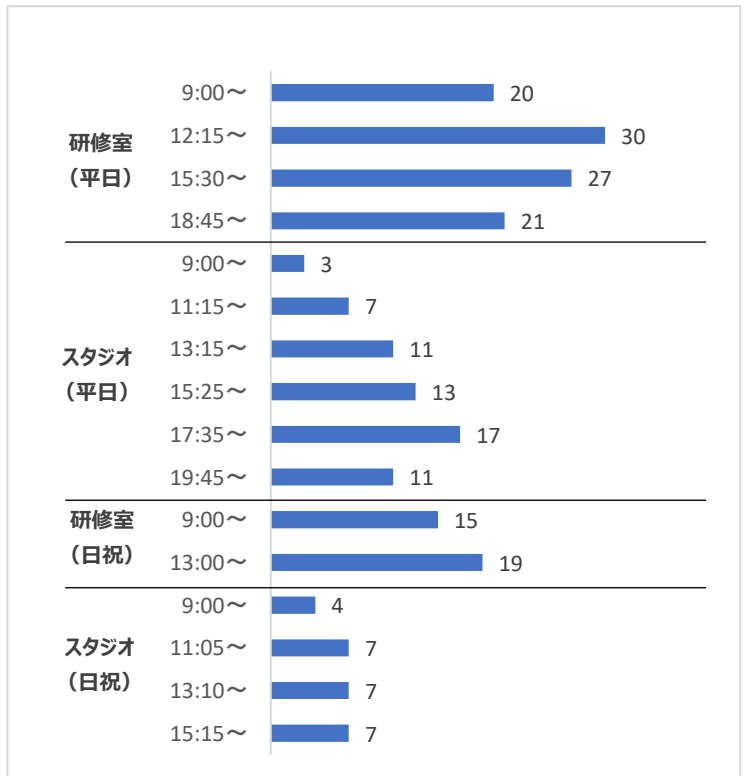
(7) 主に利用される部屋はどこですか？(複数回答可)

①	第1研修室	36	23%
②	第2研修室	35	22%
③	ミーティングルーム	36	23%
④	和室	19	12%
⑤	スタジオ	32	20%
⑥	未記入	1	1%
総数		159	



(8) 主に利用される時間帯はいつですか？(複数回答可)

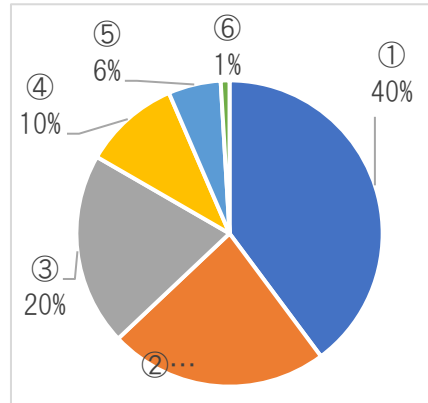
研修室(平日)			
①	9:00~	20	9%
②	12:15~	30	14%
③	15:30~	27	12%
④	18:45~	21	10%
スタジオ(平日)			
⑤	9:00~	3	1%
⑥	11:15~	7	3%
⑦	13:15~	11	5%
⑧	15:25~	13	6%
⑨	17:35~	17	8%
⑩	19:45~	11	5%
研修室(日祝)			
⑪	9:00~	15	7%
⑫	13:00~	19	9%
スタジオ(日祝)			
⑬	9:00~	4	2%
⑭	11:05~	7	3%
⑮	13:10~	7	3%
⑯	15:15~	7	3%
	未記入	2	1%
総数		221	



横浜市青少年育成センター
2023年度施設利用者アンケート集計結果

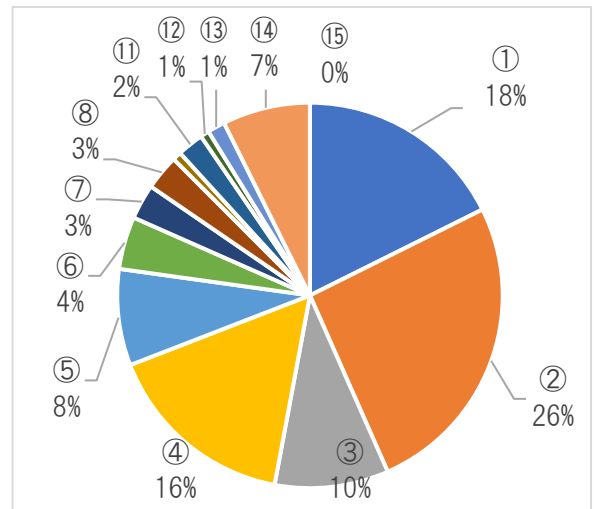
(9) 通常、何人ぐらいで利用されていますか？

① 1～5人	43	40%
② 6～10人	25	23%
③ 11～30人	22	20%
④ 31～50人	11	10%
⑤ 51人以上	6	6%
⑥ 未記入	1	1%
総数	108	



(10) どのような目的で利用されていますか？(複数回答可)

① 研修	24	18%
② 会議	35	26%
③ 勉強	13	10%
④ バンド練習	22	16%
⑤ 楽器演奏(バンド以外)	11	8%
⑥ コーラス	6	4%
⑦ 子育て関連	4	3%
⑧ 舞踊・ダンス	4	3%
⑨ スポーツ・武道	0	0%
⑩ 美術・工芸	1	1%
⑪ 講演会	3	2%
⑫ 演劇	1	1%
⑬ 茶華書道・着付け	2	1%
⑭ その他	10	7%
⑮ 未記入	0	0%
総数	136	

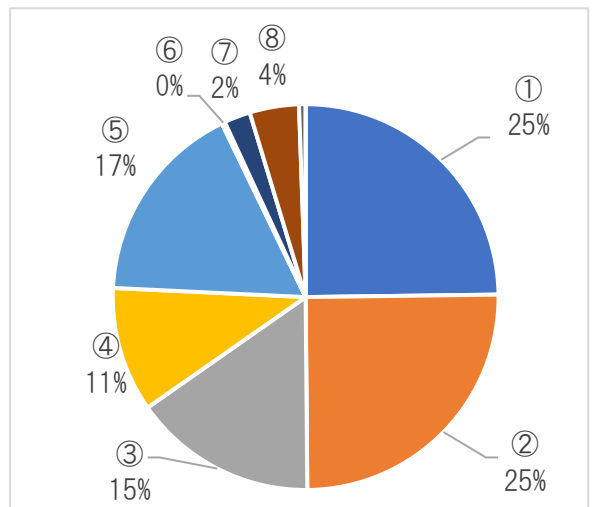


楽器練習/謡曲・仕舞/詩吟/ボードゲーム会・フリースペース/
大会抽選会/ボイストレーニング/異業種交流/座禅/食品提供
/カウンセリング学習会

(11) 育成センターを利用している理由は何ですか？(複数回答可)

① 料金が適当	90	25%
② 立地環境が良い	91	25%
③ 受付の対応が親切	56	15%
④ 利用手続きが簡単だから	38	10%
⑤ 施設が使いやすい	62	17%
⑥ 他の施設がとれなかった	1	0%
⑦ オンライン環境が充実している	8	2%
⑧ フリーWiFiがある	15	4%
⑨ その他	2	1%
⑩ 未記入	0	0%
総数	363	

好き/レクリエーションができる/会員が慣れている

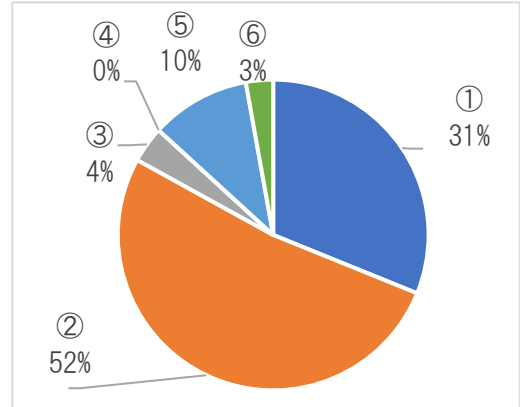


横浜市青少年育成センター
2023年度施設利用者アンケート集計結果

2. 育成センターの機能について

(1) 育成センターの設置機材や貸出機材は使いやすかったですか？

① とても使いやすい	33	31%
② 使いやすい	55	52%
③ あまり使いやすくない	4	4%
④ 使いにくい	0	0%
⑤ 使ったことがない	11	10%
⑥ 未記入	3	3%
総数	106	



(2) 上記質問の回答理由をご記入下さい。(任意記入)

①と回答の人の声

使い慣れているため/場所が参加の中心/必要な物が揃っているため/予約はもちろんのこと、当日予約や急な延長、キャンセルにも親切にご対応いただき助かります/わかりやすくカゴに入っている/便利に利用させていただいてます/部屋が好き/様々揃っていてしかも安価である。キャンセル代がかからない。スタジオの中の機材は無料なのはとてもありがたい。/印刷を数回させて頂きました。整理されており使いやすかったです。教えて下さる方も丁寧でした。/ハイブリッドの研修に対応いただける点や市教委の活動なので料金がかからない点が助かっております。/ラインをつなぐだけで、天上スピーカーから音声が出る。

②と回答の人の声

すぐにスタッフさんがメンテナンス協力に応じてくれるから/非常に助かっています/CDプレーヤーと延長コードのみ特に不便は感じません。/プロジェクターなど対応機材が豊富/音が出て楽しかった/マイクは調子のメンテナンスをお願いしたい/有線及びPCのレンタル等助かっています。オンライン配信での研修もあるため/ワイヤレスを使わせていただいておりますが、特に問題はありません。/プロジェクターは便利でした/使い易いが使用方法が一目で分からないので、初めて使用すると戸惑うのと、トラブルに対応できなくなってしまう。/使い方がわかりやすい/大きなミラーが助かります。いつもありがとうございます。/事務室で要望を聞いてくれて貸出器材を出してくれる。同じ器材を同じように使っているため楽。/マイクの調整に少し戸惑いました/座布団のカビ対策、ありがとうございます/シンプルのため/ゴミ袋を提供して頂けるのはありがたいです

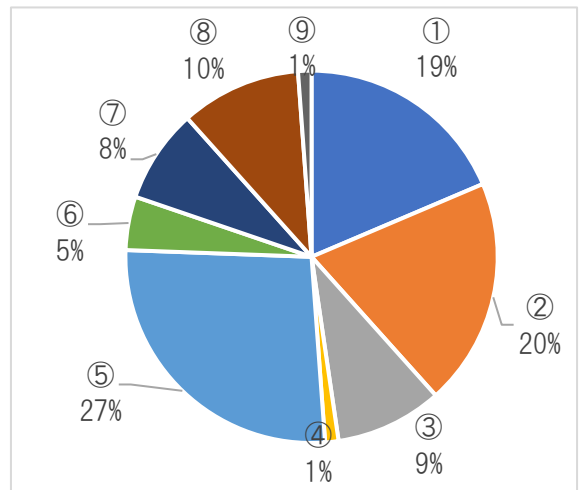
③と回答の人

blue toothが時々反応してくれませんが、移動させるのが不便(MR)/blue toothのスピーカーがあると良い/以前のようにアップライトピアノの方が良かった。

(3) 部屋以外に利用・活用したことがあることを教えてください。(複数回答可)

① 研修・講座	16	19%
② 交流スペース	17	20%
③ 個別学習・パソコンスペース	8	9%
④ ユースライブラリー(図書の見覧・貸出)	1	1%
⑤ コピー機・印刷機	23	27%
⑥ 職員への相談(活動や青少年について)	4	5%
⑦ 配架チラシ・掲示物での情報収集	7	8%
⑧ 育成センターでのチラシ等配架依頼	9	10%
⑨ その他	1	1%
総数	86	

セミナー参加



(4) どんな機能があると良いと思いますか。(任意記入)

プロジェクター大と音量

NPO団体が入居出来る共同オフィス(月額3000~5000円程度くらいで 交流スペースを使って団体の出展ができる機会等)

和室にスクリーンがあると便利かと思います

LINEなど申請書の提出が省略されると尚良い

ギタースタンドがあると便利

MRにコートがかけがあると良いと思います。

zoom利用等のライブ会議がやりやすいと便利だと思います。

トイレの数を増やしてほしい

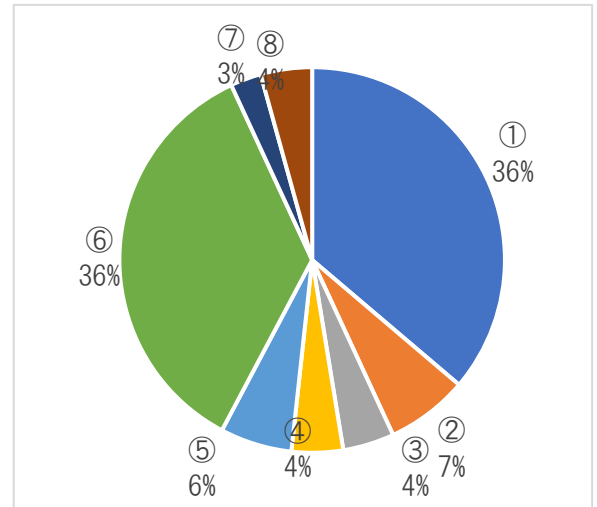
パソコンの機種によるものか古い型のせいか不明ですが、訂正をかけた時に直らないときがありました。正しく修正できる

横浜市青少年育成センター
2023年度施設利用者アンケート集計結果

3. 情報の収集について

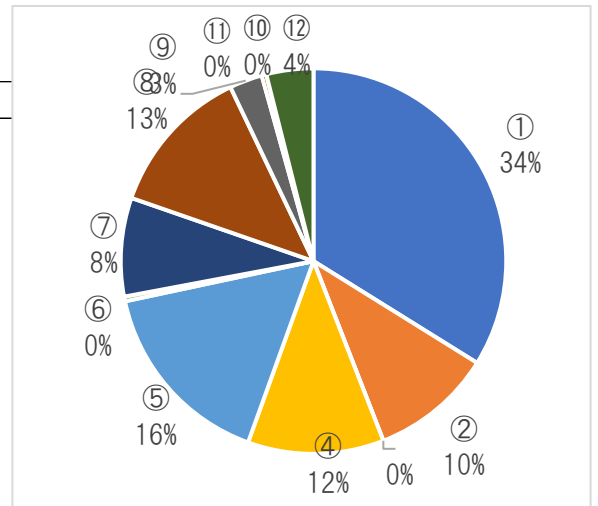
(1) 育成センターを何で知りましたか？(複数回答可)

① 知人の紹介	42	36%
② 関内ホールを利用の際	8	7%
③ パンフレット・事業チラシ	5	4%
④ SNSなどソーシャルメディア	5	4%
⑤ 他施設からの紹介	7	6%
⑥ 以前から利用している	41	35%
⑦ その他	3	3%
⑧ 未記入	5	4%
総数	116	



(2) 日常で使用しているWEB情報ツールは何ですか？(複数回答可)

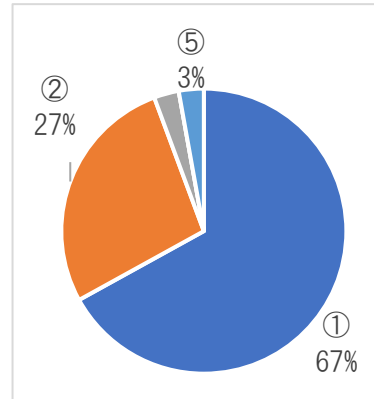
① 検索サイト(GoogleやYahoo!等)	86	34%
② Twitter	26	10%
③ Facebook	21	8%
④ Instagram	29	11%
⑤ Line(公式アカウント)	41	16%
⑥ Note	1	0%
⑦ Googleマップ	21	8%
⑧ Youtube	32	13%
⑨ TikTok	7	3%
⑩ LinkedIn	1	0%
⑪ その他	0	0%
⑫ 未記入	10	4%
総数	254	



横浜市青少年育成センター
2023年度施設利用者アンケート集計結果

(1)受付での対応(あいさつ、話し方、要望への対応)はいかがでしたか？

① とても良い	71	67%
② 良い	29	27%
③ あまり良くない	3	3%
④ 良くない	0	0%
⑤ 未記入	3	3%
総数	106	

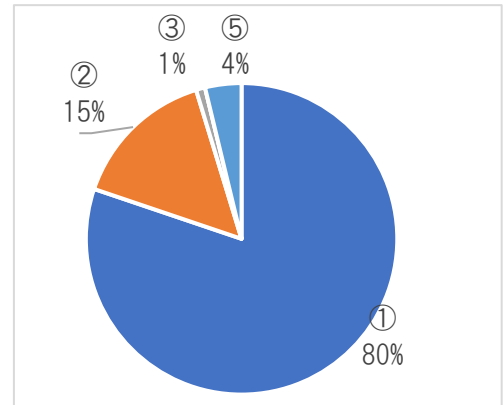


(2)上記質問の回答理由をご記入下さい。(任意記入)

いつもとても親切に対応くださり、要望も聞

(1)育成センター全体の満足度を教えてください。

① 満足	85	80%
② やや満足	16	15%
③ やや不満足	1	1%
④ 不満足	0	0%
⑤ 未記入	4	4%
総数	106	



(2)育成センターに対する要望やお気づきの点があればご記入下さい。(任意記入)

音楽スタジオの収容人数を増やしてほしい。現在8人定員だが15名定員にする等。

トイレは(女子)もう1つ座れるのがあるといいと思う。

コートをかけるハンガーラックがあると冬は助かります。オンラインの申込みや予約ができるといいと思います

第一研修室にキーボードではなくピアノが入ると良いと思います

更新手続きはメール添付で書類の提出をできるようにしてほしい。今時「直接持参して」など時代遅れ。特にコロナの頃！市助成金でさえメール添付申請でした！

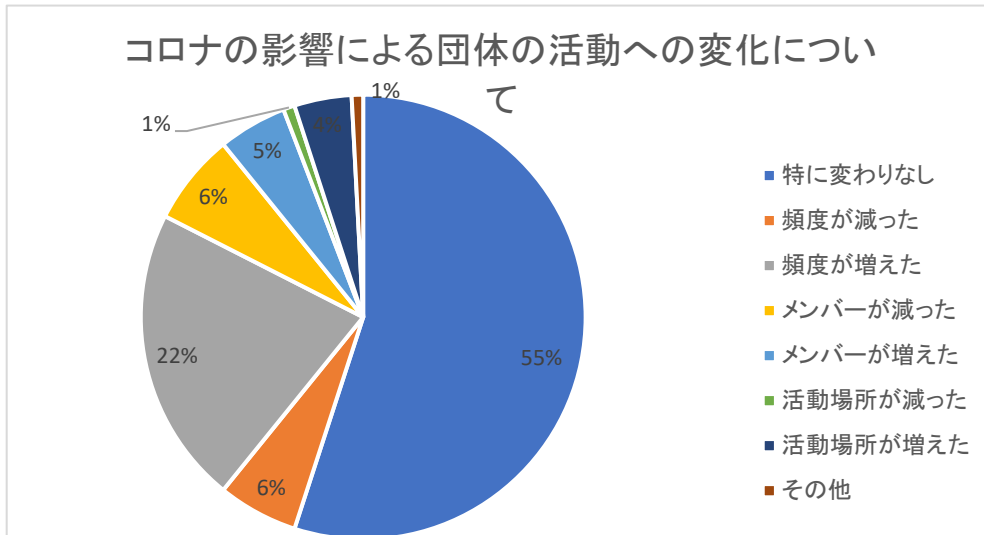
非常に使い易く長らく利用させていただいています。今後もこのスペースを維持(していくのは大変かと思いますが)していけたら幸いです。よろしくお願いいたします。

コロナの影響による団体の活動への変化について

アフターコロナの活動①	特に変わりなし	66	55%
アフターコロナの活動②	頻度が減った	7	6%
アフターコロナの活動③	頻度が増えた	26	22%
アフターコロナの活動④	メンバーが減った	8	7%
アフターコロナの活動⑤	メンバーが増えた	6	5%
アフターコロナの活動⑥	活動場所が減った	1	1%
アフターコロナの活動⑦	活動場所が増えた	5	4%
アフターコロナの活動⑧	その他	1	1%

その他内訳: 活動内容(コンテンツ)が充実してきた

120



体系	項目	自己評価
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与 諸室および物品の貸出	<p>新型コロナが5月に感染症第5類に移行し、施設利用は前年度の稼働率や利用人数を上回る実績となりました。しかし、回復は力強さを欠き、目標としていた数値には届きませんでした。利用状況は青少年・一般利用に比べて、育成者・指導者の利用の伸びが弱かったことから、下半期に青少年に関わる NPO 法人や市民団体に利用案内を行ない、育成者・指導者を中心とした利用の底上げに取り組みました。</p> <p>利便性向上の取り組みでは、昨年度に始まったオンライン機材貸出やオンライン活動サポート、キャッシュレス決済システムが徐々に軌道に乗っていることに加え、下半期にはLine公式アカウントを活用した情報発信と使用申請手続きの導入に着手し、次年度運用に向けて準備を行ないました。引き続き、活動支援の場としての諸室提供の充実を図ります。</p>
	え 相談・助言 相談・コーディネート	<p>相談・コーディネートでは、5類移行後という事もあって団体や活動者から事業企画や実施、講師・会場に関する相談が寄せられました。加えて、個人（青少年あるいは保護者）から進学、子育て、夫婦や家庭に関する相談が多く寄せられるようになっており、相談内容の拡大とその対応が職員間の課題となっています。対応として、個人からのこうした相談は、その場で解決を急がず、まずは相手の話をよく聞き、適切な機関につなぐことを心掛けています。</p> <p>引き続き、幅広い相談に対応できるよう、職員の相談対応スキルの向上に努めます。</p>
	情報提供	<p>情報発信では、HPやSNSを活用して施設情報や事業案内の投稿をした他、青少年課題や他団体の活動に関する情報も取り上げたことから、フォロワー数やリアクション数が上昇しました。</p> <p>ユースライブラリー運営では、研修事業等を通じた蔵書購入の他、市内外で青少年育成や市民活動を実践する団体資料のコーナーをトピックとして設けるなどの工夫を行ないました。引き続き、蔵書の有効活用につなげられるよう努めていきます。</p> <p>また、青少年育成団体の活動紹介パネル展を年4回（4団体）地下2階廊下で開催し、市内で青少年育成に取り組む様々な活動を取り上げて紹介しました。</p>
	お 調査・ 調査・資料収集	<p>地域の青少年活動の調査では、今年度も青少年に関する新しい取り組みや見本となる活動に焦点をあて、情報収集とSNSによる発信を行ないました。今後もこうした活動を通して、充実した調査・情報収集に努めます。</p> <p>コロナ禍に始まった大学生ボランティアによる地域の活動や青少年活動のオンライン取材・発信は、5類移行後、実際に地域で活動する大学生が増えており、次世代人材育成の視点からも有効な取組みとして成長していると感じています。</p> <p>また、青少年活動を実践する団体との意見交換会は、事業協力団体6団体と行ないました。交換会では施設の利用ニーズだけでなく団体活動の現状把握にも努め、事業や活動支援に関しても多くの意見・要望をいただくことができました。交換会は、団体とコミュニケーションを図れる場であり、今後の運営や活動につながる機会としても有効であると感じています。</p>
	「ユースワーカー」認定研修の検討・調査	<p>昨年度までの調査に基づき、今年度はユースワーカー協議会と連携して試行的講座として実施しました。講座には県外からの参加もあり、関心の高さや一定のニーズを感じる事ができました。下半期には研修参加者を対象としたヒアリングを行ない、次年度に向けた検証にも取り組みました。</p>

体系	項目	自己評価
B 青少年を支える人材を育成する事業	青少年に関わる人材育成する研修・講座	<p>今年度は新型コロナが5類に移行したことを受けて、要望の多かった対面形式による研修を意識して実施しました。</p> <p>青少年理解の基礎研修では「子どもの虐待」「ヤングケアラー」「オーバードーズ」など、社会問題となっている幅広いテーマを取り上げました。研修は前年度同様にハイブリッド形式で行ないましたが、全体的に参加が伸びなかったことから、時期・形式・広報など次年度に向けて検討していきます。</p> <p>専門研修は「性教育を学ぶ」「ストレスマネジメント」という2つのテーマで実施しました。「性教育」は支援者が青少年と性に関して話ができることを目指しました。参加者からは「年齢に応じた性の話があると分かった」「具体的な方法を教えてもらえ、どう接すれば良いか勉強になった」などの感想がありました。また「ストレスマネジメント」では、青少年に関わる現場のストレス管理とセルフケアを併せて実施したことで「いつも人の為と思ってやってきたが、自分に意識を向ける内容で新鮮だった」「自身の気持ちを受け止めてこそ、人の話が聴けると分かった」などの感想が聞かれました。引き続き、実務経験者のレベルアップに資する研修の提供に努めます。</p>
	青少年活動や団体活動を支援する講座	<p>スキルアップ講座は「子ども・青少年の関わり方のコツ」と題して、若者が立ち上げた若者支援団体3団体から講師を迎え、団体を立ち上げた経緯や青少年に向き合っている思いなどを若者自身から聞くことで日ごろの活動に活かすことを目的に実施しました。</p> <p>団体運営や課題解決に役立つ講座では、子供たちに届く・伝わる発声や声の表現を学ぶ「ボイストレーニング」、地域イベントを盛り上げる「バルーンアート」を取り上げ、運営や活動に役立つ研修として実施しました。参加者からは「実践的な講義内容に自信がついた」「次回も学びたい」などの声を多くいただきました。今後も地域や市民団体の活動推進に役立てられるよう取り組みます。</p>
	青少年に関わる人材のすそ野を広げる取組	<p>次世代人材育成ボランティアでは、次代を担う大学生世代の若者が「子ども・若者の居場所」「地域の情報」の取材や活動参加に携わりました。参加した若者からは「同じような関心を持っている同世代と知り合えた」「地域活動や地域に関わる仕事に関心が向いた」などの声があり、若者が地域とつながる機会を提供できていると感じています。</p>
	団体等との協働による人材育成	<p>団体と連携した人材育成では「よこはまチャイルドライン」「神奈川こども支援センター」を含めた7団体と「一般社団法人ラシク045」など今年度新たに2団体を加えて実施することができました。連携することで人材育成のすそ野を広げられているだけでなく、青少年育成者・指導者、そして人材育成の拠点としての施設PRにもつながることができています。</p>
	青少年に関わるひと・団体の交流促進	<p>青少年に関わる実践者の交流勉強会「わかてのば」では、子どもや若者に関わる若手スタッフに加え、今年度は地域で活動する若手までを対象として学び合いの場を開催しました。他分野の20～30代の若手職員の横の関係づくりや、各々のキャリアや価値観を共有することで自己のキャリアを考え、理解を深める機会となっています。</p> <p>横浜子ども・青少年に関わる活動関係者の「大交流会」は、対面形式での開催を復活させたところ、41団体76人と昨年度を大きく上回る参加を得ました。子ども・青少年に関わる様々な分野の人たちが一堂に会し交流することで、活動共有だけでなく、新たなつながりが生まれる場として重要な取り組みになっています。</p>

2023年度 横浜市青少年育成センター 収支予算書及び報告書

収入の部 (税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	47,927,000		47,927,000	47,927,000	0	横浜市より
利用料金収入	1,955,000		1,955,000	1,548,760	406,240	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入	450,000		450,000	585,399	△ 135,399	事業参加費ほか
自主事業収入	0		0		0	
雑入	400,000	0	400,000	515,987	△ 115,987	
印刷代	220,000		220,000	405,828	△ 185,828	プリントルーム使用料
自動販売機手数料	70,000		70,000	59,159	10,841	
駐車場利用料収入	0		0	0	0	
その他（ロッカー貸出）	110,000		110,000	51,000	59,000	
収入合計	50,732,000	0	50,732,000	50,577,146	154,854	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	22,233,000	0	22,233,000	24,438,652	△ 2,205,652	
給与・賃金	17,901,000		17,901,000	20,397,093	△ 2,496,093	
社会保険料	3,000,000		3,000,000	2,497,114	502,886	
通勤手当	500,000		500,000	429,860	70,140	
健康診断費	40,000		40,000	24,175	15,825	
勤労者福祉共済掛金	35,000		35,000	24,000	11,000	
退職給付引当金繰入額	757,000		757,000	1,066,410	△ 309,410	
事務費	490,000	0	490,000	353,540	136,460	
旅費	30,000		30,000	16,010	13,990	
消耗品費	50,000		50,000	145,189	△ 95,189	事務物品（コピー用紙、文具、プリンタートナーなど）
会議賄い費			0	0	0	
印刷製本費	50,000		50,000	101,880	△ 51,880	施設パンフレット・封筒の作成費
通信費	60,000		60,000		60,000	
使用料及び賃借料	60,000	0	60,000	63,936	△ 3,936	
横浜市への支払分	60,000		60,000	63,936	△ 3,936	貸ロッカー設置に伴う目的外使用料
その他			0	0	0	
備品購入費	70,000		70,000	0	70,000	貸出物品購入ほか
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	20,000		20,000	5,500	14,500	
職員等研修費	50,000		50,000	1,500	48,500	事業実施に関する研修
振込手数料	100,000		100,000	19,525	80,475	
リース料	0		0	0	0	貸出事業にかかる経費として事業費に計上
手数料			0	0	0	
地域協力費	0		0	0	0	
事業費	7,450,000	0	7,450,000	6,784,027	665,973	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費	7,450,000		7,450,000	6,784,027	665,973	相談事業、教室（講座）事業、貸室事業にかかる経費（事業スタッフ賃金、印刷機リース、諸謝金、広報通信費ほか）
自主事業費	0		0		0	
管理費	15,280,000	0	15,280,000	12,367,668	2,912,332	
光熱水費	0	0	0	0	0	施設負担金として、設備保全費に一括計上（関内ホール）
電気料金	0		0	0	0	
ガス料金	0		0	0	0	
水道料金	0		0	0	0	
清掃費			0	0	0	施設負担金として、設備保全費に一括計上（関内ホール）
修繕費	1,200,000		1,200,000	37,345	1,162,655	小破修繕対応費
機械警備費			0	0	0	施設負担金として、設備保全費に一括計上（関内ホール）
設備保全費	14,080,000	0	14,080,000	12,330,323	1,749,677	施設負担金（関内ホール）ほか
空調衛生設備保守	0		0	0	0	
消防設備保守	0		0	0	0	
電気設備保守	0		0	0	0	
害虫駆除清掃保守	0		0	0	0	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	14,080,000		14,080,000	12,330,323	1,749,677	施設負担金（12,268,000）、廃棄物処理費（9,863）、管理消耗品費
共益費	0		0	0	0	
公租公課	2,000,000	0	2,000,000	3,800,000	△ 1,800,000	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	1,995,000		1,995,000	3,800,000	△ 1,805,000	消費税
印紙税	5,000		5,000	0	5,000	
その他（ ）	0		0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	2,497,000	0	2,497,000	1,572,859	924,141	
本部分	1,500,000		1,500,000	1,000,000	500,000	
当該施設分	997,000		997,000	572,859	424,141	会計システム保守、動産保険負担金、税理士・社労士顧問料ほか
二一ズ対応費	782,000	0	782,000	0	782,000	
支出合計	50,732,000	0	50,732,000	49,316,746	1,415,254	
差引	0	0	0	1,260,400	△ 1,260,400	

自主事業費収入				0		
自主事業費支出				0		
自主事業収支	0			0		

管理許可・目的外使用許可収入	0			110,159		
管理許可・目的外使用許可支出	0			63,936		
管理許可・目的外使用許可収支	0			46,223		